地震災害分科会趣旨説明

　大きな地震では、人々の暮らしと生命を失っています。しかしその原因を調べていくと事前の対策次第では被害を少なくすることができたのではと考えられることもたくさんあります。それを深めていくのが「防災・減災」だと思います。

　個人や家族のレベル、地域のレベル、国のレベルでも考え、政策化していくことも必要です。全国災対連の「災害NGO」「防災ナショナルセンター」としての役割の大きな一つです。国政に反映をしていくための法制度の充実なども進めています。

　対策の一歩は現実の被災の様子を知ることから始まります。

　１００年前の「関東大震災」は１０万５０００人の犠牲者ですが、火災が一番大きな原因でした。２８年前の「阪神・淡路大震災」では住宅の倒壊による８９％と圧死が主な原因です。「東日本大震災」では津波による溺死が９１％でした。原発災害による暮らせない地域も出てしまいました。

震災と呼ばれていない明治三陸地震津波、濃尾地震もこれらを上回る被害も出しています。日本では水害でも大きな被害を震災に匹敵するくらいの犠牲者を出しています。

　このような大きな災害への対応を考えるのは大変難しいと思いますが、対応策を身近で考え、それを積み上げて広い政策の段階にまで進めることも必要なことです。

　今回の分科会では、大きな被害が予想されている首都圏での、とりわけ密集が進み、さらに再開発などでオープンスペースもなくされようしている東京で、どのような運動があるかを報告していただき、、全国でも教訓としたいと思います。

　東京災対連は三宅島全島噴火をきっかけに都内の労組、民主団体などで結成されました。全国の被災地支援や北区の石神井川水害調査、荒川・江戸川の危険箇所の視察、関東大震災メモリアル集会での予防・防災の学習会などをおこなっています。

結成以前の災害の運動では古くは多摩川水害などや雲仙普賢岳噴火災害（蒸し焼きになった大野木場小学校へグランドピアノを送ろうなどの運動）、奥尻津波災害支援（火災保険適用を広げる運動でテレホンカードをつくった）などを渋谷の山手教会などで、実情を知らせ、支援を訴える集会を開いてきました。この運動には個人加盟の「防災問題を考える首都圏懇談会」メンバーが活動をしていました。

阪神淡路大震災後には全国災対連結成への「人間の命と暮らしを守る恒常的対策センターの確立を」というアピールの主体にメンバーがなりました。

この2つの運動が東京での特徴と思います。

大きな力を持つ組織の集合体としての災対連などの組織の力と意識した個人の集合体の自由さの両方が大きな力になっています。

個人といっても科学者会議、国土問題研究会、新建築家技術者集団、雲仙普賢岳支援組織などを所属し、専門的な知見を持っているメンバーでした。

このスタイルならどの地域でも始められます。災害を考える組織の集合体でもある「災対連」がなくても、防災に関心ある人がいれば連絡を取り合えば動き始められます。

この災害問題に対する関心ある個人の集合体をつくることをお勧めします。

災対連は、３つある目的の３番目に「③　災害・防災問題に関する運動・情報の交流」を上げています。

「いざという時の備えにー災害対策マニュアル」を発行していますが、その第7章は「日常的な防災意識を高め、災害に強いまちづくりにむけて」となっていて、この章の前書きでは「前章まで災害発生における応急対策期や復旧対策期の対応について要点や配慮すべき事項について整理をしました。これらの対策をより効果的に実行するためには、施設や資機材、備蓄、あるいは人的体制や防災訓練、また情報ネットワークなどを普段から十分に整備をしておくことは欠かせません。さらに総合的な災害対策からのの観点からいえば、災害の未然防止対策を強化して被災を抑制し、同時に事後対策の負担を小さくするという根本的な対策がきわめて重要になります。ここではこれらの店について基本となる事項を整理します」と記されています。

分科会でのあらかじめ依頼してある運動の報告は次の通りです。

1. 人口43万人の町田市で、「耐震性の向上」と「日常の安全が非日常の安心につながるバリアフリーの住宅改造」がどのように制度を利用して進められているのかの報告です。
2. 人工95万人の世田谷区で市民運動として防災活動をしているグループから日頃の活動の他、区の地域防災計画の見直しに際して意見を出そうと考えている活動の報告です。
3. 築４０年、９棟４４６戸のマンションで、管理組合と自治会が一緒になって防災の活動をきちんとしているという報告をもらいます。この規模や築年数のマンションは東京にたくさんありますが、一つ一つが工夫を凝らして努力をしています。その中の進んだ一例です。

　前半は以上の報告をおこない、後半はフリーの論議で深める予定です。

分科会日程　１１月１２日（日）１３：００～１５：００

文責　千代崎一夫（東京災対連代表・全国災対連世話人）